# 令和２年度　沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

## １　趣　　旨

(1)　本県児童生徒一人一人の当該学年における一年間の学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

(2)　各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、年度初めに前学年の学習内容の習得状況を揃えるために実施する。

## ２　実施期間・対象学年・教科

実施時期　令和３年２月 15 日(月)～3 月 12 日（金）

| 対象学年 | 教　科 |
|---|---|
| 第５学年 | 国語、算数 |
| 第６学年 | 国語、算数 |

| 対象学年 | 教　科 |
|---|---|
| 第１学年 | 国語、数学、英語 |
| 第２学年 | 国語、数学、英語 |

## ３　教科の調査結果

(1) 小学校

| 対象学年 | 教　科 | 受験した児童数(人) | 正答率(%) | 誤答率(%) | 無解答率(%) | 正答率 30%未満の児童の割合%(昨年度値) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第５学年 | 国　語 | 15,088 | 56.7 | 27.4 | 15.9 | 9.7（20.6） |
| | 算　数 | 15,116 | 45.2 | 44.0 | 10.7 | 24.4（11.6） |
| 第６学年 | 国　語 | 15,195 | 71.0 | 25.1 | 3.9 | 4.0（－）※ |
| | 算　数 | 15,209 | 56.0 | 32.0 | 12.0 | 8.5（6.0） |

(2) 中学校

| 対象学年 | 教　科 | 受験した生徒数(人) | 正答率(%) | 誤答率(%) | 無解答率(%) | 正答率30%未満の生徒の割合%(昨年度値) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１学年 | 国　語 | 14,391 | 52.3 | 39.3 | 8.5 | 10.2（－）※ |
| | 数　学 | 14,388 | 53.2 | 39.3 | 7.5 | 18.9（18.9） |
| | 英　語 | 14,423 | 47.5 | 45.8 | 6.7 | 24.0（－）※ |
| 第２学年 | 国　語 | 14,066 | 57.1 | 34.0 | 8.9 | 8.4（5.9） |
| | 数　学 | 13,947 | 45.4 | 45.3 | 9.3 | 29.2（18.1） |
| | 英　語 | 13,947 | 50.5 | 44.7 | 4.7 | 18.8（14.6） |

※令和元年度到達度調査の実施なし

## ４　結果の概要（正答率 30%未満の児童生徒の割合から）

(1) 小学校

△小学校６年生国語の値が最も小さかった。

▼小学校５年生算数の値が最も大きかった。

(2) 中学校

△中学校２年生国語の値が最も小さかった。

▼中学校２年生数学の値が最も大きかった。

※問題内容や出題傾向が昨年度と異なっており、調査結果を単純に比較することはできないが、正答率 30%未満の児童生徒の割合について昨年度値と比較を行った。

## ５　課題及び今後の対応

各教科の記述式の設問で、誤答率や無解答率の値が大きくなる傾向がある。その傾向を改善するために下記⑴～⑷に留意した授業改善を図る必要がある。

⑴ 単元計画等に、具体的な事象や体験活動を積極的に取り入れ、児童生徒が学んだことの意義や価値を実感できる学習活動を日常化する。

⑵ 各教科で正答率 30%未満の児童生徒の学習状況を客観的に分析し、フィードバックを行う。

⑶ 各学校の正答率の低い設問は、年間指導計画に位置づけ、学力向上年間サイクルの充実を図る。

⑷ 各学校において、教科における共通する課題について分析し、「自分なりに考えること」「条件に沿って書くこと」「目的に応じて書くこと」など、全教科において組織的な授業改善を推進する。

各学校においては、新学習指導要領の目指す資質・能力の育成を、組織的・日常的な授業改善を通して推進し、児童生徒一人一人に合わせた効果的な支援を行う。

教師は、児童生徒が学んだことを様々な場面で活用したり、課題解決のために構想を立て実践し、自己の学びを振り返ったり、改善していくような学びの充実を図るよう、日常的な授業改善を推進する。

## ６　各学年・各教科ごとの状況

（１）小５〈国語〉

第５学年国語の設問数は 25 題である。調査実施の結果、中央値が 15 で標準偏差が 4.9 であった。
正答率 80%以上の児童は 14.5%、正答率 30%未満の児童は 10.7%であった。正答率 80%以上の設問が７題、正答率 30%以下の設問が４題あった。慣用句の意味を理解し、正しく使うことができているかをみる設問で誤答率が高く、自分が考えたことを文章に表すような問題で無答率が高くなる傾向が見られる。

（２）小５〈算数〉

第５学年算数の設問数は 27 題である。調査の結果、中央値が 12 で標準偏差が５であった。
正答率 80%以上の児童は 4.4%、正答率 30%未満の児童は 24.4%であった。正答率が 80%以上の設問が３題、正答率 30%以下の設問が８題あった。速さについて理解し、海底までの距離を求めることができるかをみる設問で誤答率が高く、理由など自分の考えを書くような問題で無答率が高くなる傾向が見られる。

（３）小６〈国語〉

第６学年国語の設問数は 22 題である。調査の結果、中央値が 16 で標準偏差が 4.3 であった。
正答率 80%以上の児童は 39.6%、正答率 30%未満の児童は４%であった。正答率が 80%以上の設問が７題、正答率 30%未満の設問はなかった。二字熟語の構成について正しく理解できているかをみる設問で誤答率が高く、自分が考えたことを文章に表すような問題で無答率が高くなる傾向が見られる。

（４）小６〈算数〉

第６学年算数の設問数は 32 題である。調査の結果、中央値が 18 で標準偏差が６であった。
正答率 80%以上の児童は 10.9%、正答率 30%未満の児童は８%であった。正答率が 80%以上の設問が 11 題、正答率が 30%以下の設問が８題あった。小学校調査科目で、標準偏差の値が最も大きかった。立体における面と面の位置関係を理解し、垂直であるものを判断できるかどうかをみる設問で、最も誤答率が高く、自分の考えを数学的に表現するような問題で無答率が高くなる傾向が見られる。

（５）中１〈国語〉

第１学年国語の設問数は 20 題である。調査の結果、中央値が 11 で標準偏差が 3.7 であった。
正答率 80%以上の生徒は８%、正答率 30%未満の生徒は 10.2%であった。正答率が 80%以上の設問が２題、正答率が 30%以下の設問が３題あった。中学校実施調査科目で、標準偏差の値が最も小さかった。慣用句の意味を理解しているかどうかをみる設問で、最も誤答率が高く、自分の考えが伝わるように工夫して書くような設問で無解答率が高くなる傾向が見られる。

（６）中１〈数学〉

第１学年数学の設問数は 20 題である。調査の結果、中央値が 10 で標準偏差が 4.8 であった。
正答率 80%以上の生徒は８%、正答率 30%未満の生徒が 18.9%であった。正答率 80%以上の設問が１題、正答率 30%以下の設問が１題あった。与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる設問で最も誤答率が高く、目的に応じて数学的に説明するような設問で無解答率が高くなる傾向が見られる。

（７）中１〈英語〉

第１学年英語の設問数は 36 題である。調査の結果、中央値が 17 で標準偏差が 7.8 であった。
正答率 80%以上の生徒が 7.4%であった。正答率 30%未満の生徒は 20.2%、正答率 80%以上の設問はなく、正答率 30%以下の設問が６題あった。対話文の概要を把握することができる設問で最も誤答率が高かく、質問に対する自分自身の答えを一文で書く設問で、無解答率が高くなる傾向が見られる。

（８）中２〈国語〉

第２学年国語の設問数は 20 題である。調査の結果、中央値が 12 で標準偏差が 3.9 であった。
正答率 80%以上の生徒は 14.7%、正答率 30%未満の生徒は 8.4%であった。正答率 80%以上の設問が２題、正答率 30%以下の設問が２題あった。文章の意図や中心的な部分を正しく読み取ることができるどうかをみる設問で最も誤答率が高く、自分の考えが伝わるように工夫して書く設問で無解答率が高くなる傾向が見られる。

（９）中２〈数学〉

第２学年数学の設問数は 20 題である。調査の結果、中央値が８で標準偏差が 5.1 であった。
正答率 80%以上の生徒は 14.3%、正答率 30%未満の生徒は 29.2%であった。正答率 80%以上の設問は１題、正答率 30%以下の設問が５題あった。文字を使った式が何を表しているかを考察することができるかどうかをみる設問で最も誤答率が高く、目的に応じて数学的に説明するような設問で無解答率が高くなる傾向が見られる。

(10) 中２〈英語〉

第２学年英語の設問数は 40 題である。調査の結果、中央値が 20 で標準偏差が 8.7 であった。
正答率 80%以上の生徒は 12.3%、正答率 30%未満の生徒は 18.6%であった。正答率 80%以上の設問が２題、正答率 30%以下の設問が７題あった。中学校調査科目で、標準偏差の値が最も大きかった。不定詞を活用した文構成が分かるかどうかをみる設問で最も誤答率が高かく、質問に対する自分自身の答えを示す設問で無解答率が高くなる傾向が見られる。

## 7 教科共通の課題

◆各教科における「記述式問題」から見える課題

小学校　国語

| | |
|---|---|
| ○物語文を読んで、自分が発表することを書く。小５ 5 （３） | 正答率 12.0% |
| ○事柄が明確に伝わるように工夫して発表の文を書く。小６ 3 （３） | 正答率 53.4% |

小学校　算数

| | |
|---|---|
| ○批判的に考察し筋道立てて書く。小５ 18 | 正答率 16.0% |
| ○数量関係に着目して考察・解決し書く。小６ 7 （４）② | 正答率　7.1% |

中学校　国語

| | |
|---|---|
| ○自分の考えが伝わるように工夫して書く。中１ 2 （３） | 正答率 31.7% |
| ○自分の考えが伝わるように工夫して書く。中２ 2 （３） | 正答率 24.2% |

中学校　数学

| | |
|---|---|
| ○グラフを利用して値の求め方について説明する。中１ 4 | 正答率 31.6% |
| ○数学的な表現を用いて説明する。　中２ 4 （３） | 正答率 19.5% |

中学校　英語

| | |
|---|---|
| ○自分自身の考えを１文で書く。中１ 3 （４） | 正答率 33.6% |
| ○書かれた内容に対して、自分の考えを示す。中２ 10 （３） | 正答率 49.4% |

◆各教科で共通する課題

**○目的や「問い」を自分で明らかにして、条件に合うよう考え表現する力**

・条件を提示されて解くことはできるが「誰に伝えるのか」「何のために伝えるのか」など、学習の対象や文脈から目的を自分なりに捉え、解決に導くことに課題が見られる。

**○課題が何かを明らかにし、解決を見通したり、振り返りながら全体を捉える力**

・段落やまとまりなどで捉えることはできるが、全体を俯瞰して捉えて表現したり、自己を振り返りながら解決に導くことに課題が見られる。

◆各教科の授業改善に向けて

子供たちが、課題解決へ向けて、自分なりに「問い」を立て考えるようにする。
子供たちが、他者や教材と関わりながら、学習の対象を捉え、課題解決へ向かうようにする。